



2020年7月  
聖マリア学園  
吉野幼稚園

主題「いのちの言葉」

聖書の言葉「互いに愛し合いなさい」

(ヨハネ福音書15:12)(13:34)



月日の経つのは早いもので、つい先日、始業式や入園式をしたと思っていたら、もう学期末が近づいてまいりました。いよいよ7月です。今年の夏は例年以上に蒸し暑くなりそうだという予報も出ております。また、コロナウイルス感染症の予防もあり、例年以上に、健康管理に気を遣うことになりそうです。各家庭でも、熱中症の予防やコロナ対策（毎朝の検温、手洗いうがい）など、十分ご配慮いただきますようお願いいたします。

幼稚園でお預かりしている3歳から5歳のこどもは、いわゆる「幼児期」といわれる成長過程にあります。この幼児期は、人間の成長過程の中でも大変特異な時期で、いわゆる大人が小さくなっただけの状態ではありません。この時期の子どもたちの特徴として、こころもからだもあたまも発達しているということです。個人差や発達の度合いの差はそれぞれありますが、毎日少しずつでも、確実に発達しているということです。ですから、この時期に適切な対応（日常的な世話、栄養補給、愛情を与える、指導をする等）をすることによって、ますます順調な発達をします。逆に、適切な対応がとられないと、発達が止まってしまったり、知能や人格に不適應が起こったりします。本園で取り入れている「おしごと」も、この適切な対応の一つかと思えます。

園児一人一人の「おしごと」も、発達段階や興味関心に応じて、少しずつ変わっていきます。最初は、単純なものから複雑なものへ、簡単なものから難しいものへ、少ないものから多いものへと、本当によく考えられた教具です。大人の我々がしても、楽しく興味深いものもあります。まさしく、モンテッソーリ教育の重要な部分です。先日は、園児の一人が、縫い針に糸を通してのを見て、その器用さに感心いたしました。段階を追って、きちんと練習すれば、小さい幼児でもできるのだなとびっくりすることでした。

これからも、一人ひとりの子どもと接していく中で、子どもたちが潜在的に持っている「成長する力」を育んでいきたいものです。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう

(園長 野田弘之)

### 7月のねらい

- 神様が造られた全ての「いのち」の大切さを知り、命の源である「神様」に感謝の気持ちを抱く。
- プールや水遊びを通して水に慣れ、心と身体を開放して遊ぶ。
- 七夕の意味を知る。短冊を通して、自分の思いを表現する。